



あいさつ

朝霞市教育委員会教育長
二見 隆久

朝霞第五中学校におかれましては、令和4・5年度 埼玉県道德教育研究推進モデル校として、また、本市教育委員会より研究開発学校の指定を受け、「多様な価値観にふれ、多面的・多角的に考える生徒の育成～『考え、伝え合う』道德授業の実践を通して～」を研究主題に定め、これまで研究に取り組まれてきました。この度、2年間の研究の成果を研究紀要としてまとめ、研究発表会を開催されますことに深く感謝申し上げます。

研究を進めるにあたり、朝霞第五中学校では授業実践部、環境整備部、資料統計部の3つの部会それぞれが、多面的・多角的に考える生徒の育成を目指した研究仮説を立てております。そして部会ごとに具体的な手立てを考えることで多面的・多角的な視点から研究主題にアプローチし、教職員一丸となって実践し、組織的に研究を重ねてまいりました。授業内で生徒の多様な考えを引き出すためには、教員のファシリテーション能力の向上が必要という考えのもと、道德の授業以外からもアプローチしていく「考え、伝え合う」時間を放課後に設定し、教師の指導技術の向上を図ってまいりました。

朝霞第五中学校のこれまでの取組や研究の成果が、他の学校にも生かされ、本市における特別の教科 道德の授業が、さらに向上されることを期待しております。本日は文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官 井上 結香子 様のご講演をいただきますことで、ご参会の皆様のさらなる学びにつながるものと存じます。

結びに、これまで熱心にご指導いただきました埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課長 高田 淳子 様をはじめとする指導主事の皆様、南部教育事務所長 阿部 仁 様をはじめとする指導主事の皆様、藤間 隆子会長をはじめとする埼玉県道德教育研究会の皆様、ご支援いただきました保護者・地域の皆様に厚く御礼申し上げます。また、本研究を意欲的に推進してこられました鈴木校長先生をはじめ、教職員の皆様に対して、感謝申し上げますとともに、朝霞第五中学校のますますの発展を祈念し、あいさついたします。



あいさつ

朝霞市立朝霞第五中学校長
鈴木 香織

本校は、令和4・5年度の2年間、埼玉県道德教育研究推進モデル校、朝霞市教育委員会研究開発学校の指定を受け、また、令和5年度に埼玉県道德教育研究会より第62回埼玉県道德教育研究大会朝霞大会の委嘱を受け、研究主題「多様な価値観にふれ、多面的・多角的に考える生徒の育成～『考え、伝え合う』道德授業の実践を通して～」をテーマに、道德科の授業の実践を中心に研究を進めてきました。

研究を進めるにあたっては、研究主任を中心に毎週1回、校内研修推進委員会を開催し、それぞれの部会の進み具合や道德科の授業の指導方法の確認、研究内容の計画など、実に様々な視点からこの研究テーマにせまるための方策等について議論し、改善してきました。令和4年度では、まず、教師の授業に対する意識が変わらなければ生徒も変容しないと考え、校内授業研究会や講演会、「考え、伝え合う」時間の設定など教員の指導力を向上させるための取組から始めました。教員同士で何度も意見交換しながら、どうすれば生徒の多様な考えや思いを引き出すことができるのかについて真剣に話し合いました。令和5年度は、全教職員で研究に取り組む体制を構築し、一人一研究授業を実践し、指導案の段階から全教職員で練り上げてきました。その結果、生徒たちからは「道德科の時間が好きだ」「道德科の時間は、自分の生き方や考え方に影響している」という声が多く聞こえるようになりました。

本日は、全クラスの道德科の授業をご覧ください、さらに、文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官の井上 結香子 様よりご講演をいただきます。

結びに、本研究を進めるにあたり、これまでご指導いただきました埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課長 高田 淳子 様をはじめとする指導主事の皆様、南部教育事務所長 阿部 仁 様をはじめとする指導主事の皆様、埼玉県道德教育研究会長 藤間 隆子 様をはじめとする埼玉県道德教育研究会の皆様、朝霞市教育委員会教育長 二見 隆久 様をはじめとする朝霞市教育委員会の皆様、多くの関係者の皆様に心から感謝と御礼を申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。

【ご指導いただいた先生方】

令和5年度

文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官 井上 結香子 様
埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課長 高田 淳子 様
埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課教育指導幹 阿部 弘之 様
埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事 芳賀 一行 様
埼玉県教育局南部教育事務所長 阿部 仁 様
埼玉県教育局南部教育事務所首席指導主事 水落 美佳子 様
埼玉県教育局南部教育事務所学力向上推進担当指導主事 坂井 貴文 様
朝霞市教育委員会教育長 二見 隆久 様
朝霞市教育委員会学校教育部長 野口 邦彦 様
朝霞市教育委員会学校教育部教育指導課長 松本 欣巳 様
朝霞市教育委員会学校教育部教育指導課指導主事 大城 倫子 様

〔埼玉県道德教育研究会〕

幸手市立幸手中学校長 島方 勝弘 様 加須市立加須西中学校長 藤間 隆子 様
杉戸町立杉戸第二小学校長 関本 由美 様 熊谷市立男沼小学校長 森田 昌孝 様
加須市立志多見小学校長 寺井 次郎 様 行田市立埼玉中学校長 鈴木久美子 様
幸手市立さくら小学校長 岸 千里 様 川島町立西中学校長 佐藤 香織 様
熊谷市立奈良小学校長 井上 貴昭 様 鴻巣市立箕田小学校長 清水 良江 様

令和4年度

文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官 飯塚 秀彦 様
武蔵野美術大学教授 三澤 一実 様
埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事 芳賀 一行 様
埼玉県教育局南部教育事務所教育支援担当指導主事 新居 良介 様
朝霞市教育委員会教育長 二見 隆久 様
朝霞市教育委員会学校教育部長 野口 邦彦 様
朝霞市教育委員会学校教育部教育指導課長 松本 欣巳 様
朝霞市教育委員会学校教育部教育指導課主幹兼課長補佐 太田 禎治 様
朝霞市教育委員会学校教育部教育指導課指導主事 川村 巖 様
朝霞市教育委員会学校教育部教育指導課指導主事 高梨 勝也 様
朝霞市教育委員会学校教育部教育指導課指導主事 金井 邦夫 様

【研究に携わった教職員】

令和5年度 ◎研究主任 ○道德教育推進教師 ●研修推進委員

〔校長〕 鈴木 香織 〔教頭〕 相澤 昌彦
〔1年〕 宗像 正輝 ◎●岩崎 拓哉 真壁 直子 鈴木 雅也
重田 廉 三條 嘉純
〔2年〕 北地 英明 ○●増田 駿一 菰原 竜 山田 浩司
高木 智花 野口 遥
〔3年〕 古谷野 智恵 ●蓮見 幸子 加納 充浩 門倉 智弘
佐藤 雅之 粕谷 くるみ 伴野 耕介 波多野 彩香
〔6組〕 藤田 志穂 ●國分 康太 佐々木 ひとみ
〔学年外〕 ●小松 健 飯田 成子 金山 郁 佐藤 友梨
金子 康雄 細川 温子 新澤 由美子 天宮サーリン
クリス・ジェンキンソン

令和4年度

〔教頭〕 鈴木 康之 〔1年〕 渡邊 彩香 大内 知行 〔2年〕 山崎 早智子
阿部 番之 石原 久仁 〔3年〕 奥山 真衣 藤本 実桜 大屋 絵真
〔6・7組〕 林 雅也 〔学年外〕 ダスティン・ブラウアー ニコラ・レプントン

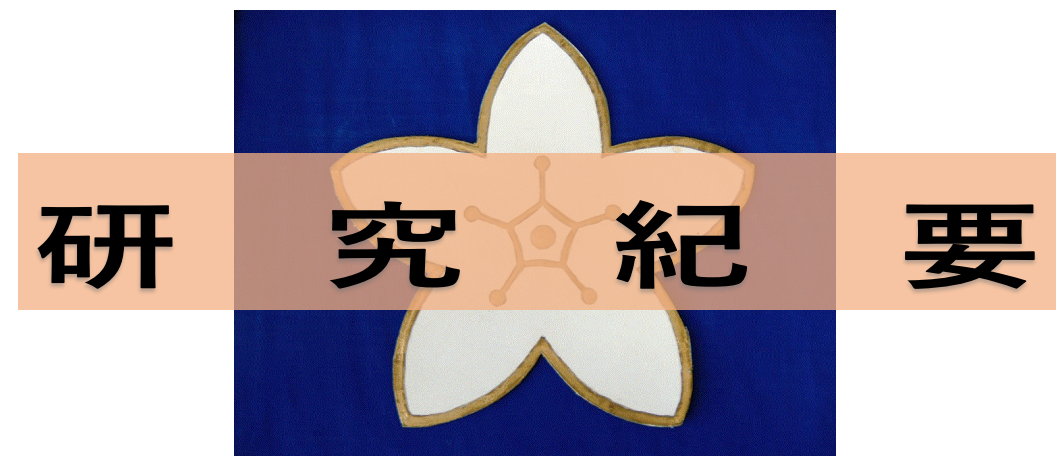
【おわりに】

埼玉県道德教育研究会 会長 藤間 隆子

朝霞市立朝霞第五中学校におかれましては、令和4・5年度埼玉県道德教育研究推進モデル校、朝霞市教育委員会研究開発学校として研究を進めると共に、第62回埼玉県道德教育研究大会朝霞大会も併せて開催していただきましたこと、心より感謝申し上げます。

鈴木校長先生のリーダーシップのもと、道德教育の要である道德科の授業の改善について全教職員で取り組み、研究主題に迫ることができたことと実感しております。各学校におかれましては、本校の取組を大いに参考にし、埼玉県の道德教育の推進に向け一層の御尽力をお願い申し上げます。また、本研究に関わった全ての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

令和4・5年度 埼玉県道德教育研究推進モデル校研究発表会
令和4・5年度 朝霞市教育委員会研究開発学校指定校研究発表会
令和5年度 埼玉県道德教育研究会委嘱
第62回埼玉県道德教育研究大会朝霞大会



多様な価値観にふれ、多面的・多角的
に考える生徒の育成
～「考え、伝え合う」道德授業の実践を通して～



令和5年11月8日（水）

朝霞市立朝霞第五中学校

〒351-0031 埼玉県朝霞市宮戸1580

TEL 048-471-2236 FAX 048-476-1328

【研究の全体構想】

日本国憲法・教育基本法・学校教育法・学習指導要領
 埼玉県教育行政施策・埼玉県の指導の重点・努力点
 朝霞市教育行政施策・朝霞市の指導の重点・努力点

保護者の願い
 地域の要望

〈学校教育目標〉
 ○進んで学習する生徒（知）
 ○人の気持ちがわかる生徒（徳）
 ○自ら体を鍛える生徒（体）

生徒の実態
 教師の願い

〔目指す学校像〕
 家庭・地域とともに育
 む信頼される学校

〔目指す教師像〕
 ○情熱と使命感を持って指導できる教師
 ○専門職としての誇りを持ち、生涯学び続ける教師
 ○互いに磨き合い高め合う教師

〔目指す生徒像〕
 広い視野を持ち、多面的・多角的に考える生徒

研究主題
 「多様な価値観にふれ、多面的・多角的に考える生徒の育成」
 ～「考え、伝え合う」道徳授業の実践を通して～

研究仮説
 ○「考え、伝え合う」道徳授業をすることで、自分だけでは気付くことができなかった多様な価値観にふれることができ、多面的・多角的に考える生徒を育成できるであろう。（授業研究部）
 ○多様化する生徒の実態に応じて、目標や方法などの「見える化」を行うことで、多面的・多角的に考える生徒を育成できるであろう。（環境整備部）
 ○指導重点目標を生徒の実態から設定し、家庭・地域と方向性を共有する取組を推進すれば多面的・多角的に考える生徒を育成できるであろう。（資料統計部）

<p>授業研究部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年ローテーション授業 ・授業相互見学 ・指導案作成の検討 ・校内授業研究会の設定 ・指導者による授業見学及び講演会 ・彩の国の道徳「未来に生きる」活用 ・道徳科の授業参観 など 	<p>環境整備部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「考え、伝え合う」時間の設定 ・ファシリテーション能力の育成 ・校内啓発用掲示物の作成 ・教材の共有化 ・教員の道徳科の授業における「虎の巻」の作成 ・道徳ファイルの作成 など 	<p>資料統計部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートの実施・集計・分析 ・教員アンケートの実施・集計・分析 ・保護者アンケートの実施・集計・分析 ・心理テスト「hyper-QU」の実施・活用 ・「規律ある態度」の結果分析 など
--	--	---

研究発表会 研究協議 研修推進委員会 校内研修

「考え、伝え合う」道徳授業の実践

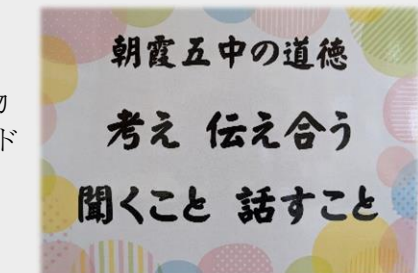
【授業研究部の取組】

- 学年ローテーション授業の実施
 - ・月曜日の5時間目の道徳科の授業を全クラス学年ローテーションで実施
 - ・道徳シート「5中スタンダード」の活用
- 授業相互見学
 - ・授業見学と授業後の話し合い
 - ・「指導力向上のためのチェックシート」の活用
- 指導者による授業見学及び講演会〔令和4年度〕
 - ・文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 飯塚 秀彦 様（7月）『「特別の教科 道徳」の充実に向けて』
 - ・埼玉県市町村支援部義務教育指導課指導主事 芳賀 一行 様（2月）『「特別の教科 道徳」～学習する子どもの視点に立って～』
- 全教員による指導案作成、校内授業研究会
 - ・校内授業研究会 令和4年11月28日
 - 1年2組 「コロナ禍で気付いたこと」（彩の国の道徳「未来に生きる」）
 - 2年2組 「星置きの滝」（明日への扉2）
 - 3年1組 「男らしさ女らしさ、自分らしさ」（彩の国の道徳「未来に生きる」）
 - ・校内授業研究会 令和5年7月10日
 - 8クラスで研究授業を実施
 - 埼玉県道徳教育研究会より指導者派遣
 - 朝霞市立朝霞第三小学校教員参加（小中連携）
- 保護者・地域の方々による道徳授業参観・意見交換〔令和4年度〕
 - ・3月17日 5時間目 道徳科 保護者による授業参観・意見交換
 - ・2月27日 5時間目 道徳科 学校評議委員による授業参観・意見交換〔令和5年度〕
 - ・4月24日 5時間目 道徳科 学校運営協議委員による授業参観・意見交換
 - ・4月28日 5時間目 道徳科 保護者による授業参観
- 道徳教育全体計画、道徳科年間指導計画の見直し
 - ・保護者アンケートを踏まえた道徳教育全体計画の見直し
 - ・学年ローテーション用の道徳科年間指導計画の見直し など



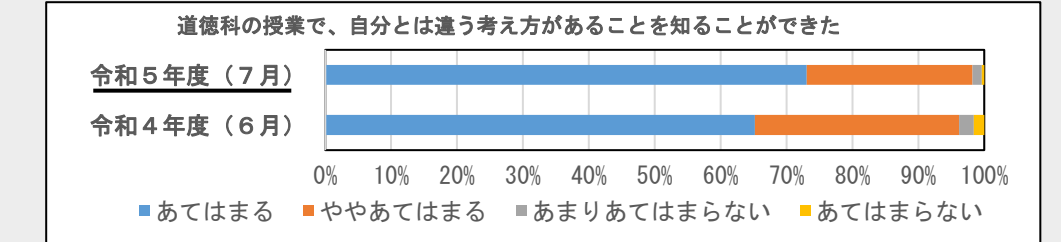
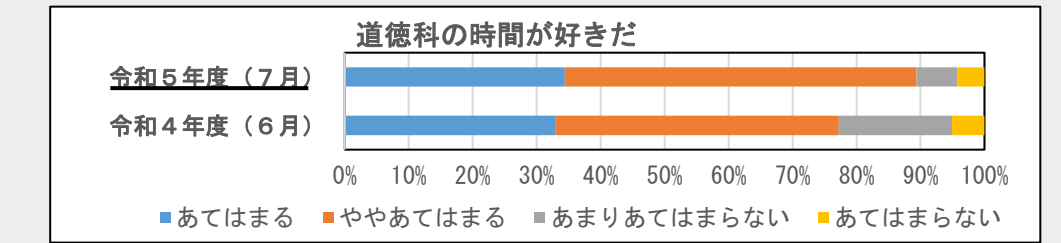
【環境整備部の取組】

- ファシリテーション能力育成のための研修会
 - ・武蔵野美術大学教授 三澤 一実 様 「ファシリテーション能力の向上」
 - ・校内研修における鑑賞教育の実践演習
- 「考え、伝え合う」時間の設定
 - ・毎月1回水曜日の放課後「考え、伝え合う」時間の設定（15分間）
 - ・小グループでの話し合い など
- 校内道徳啓発用掲示物の作成
 - ・「朝霞五中の道徳 考え 伝え合う」掲示物
 - ・道徳ファイル「話す力 聴く力」目標カード
 - ・人権標語、いじめゼロ宣言
 - ・ポートフォリオ など
- 教材の共有化（電子データ）
 - ・ワークシート
 - ・教材
 - ・指導案 など
- 教員の道徳科の授業における「虎の巻」の作成
 - ・道徳科の授業で工夫している点
 - ①ICT系 ②心構え
 - ・必ず行っていること
 - ・他の先生方にも実践してほしいこと
 - ・道徳科の授業で苦労したこと、悩んだこと
- 各学年道徳コーナーの設置
 - ・学年ごとに廊下壁面に「道徳コーナー」を工夫して設置 など

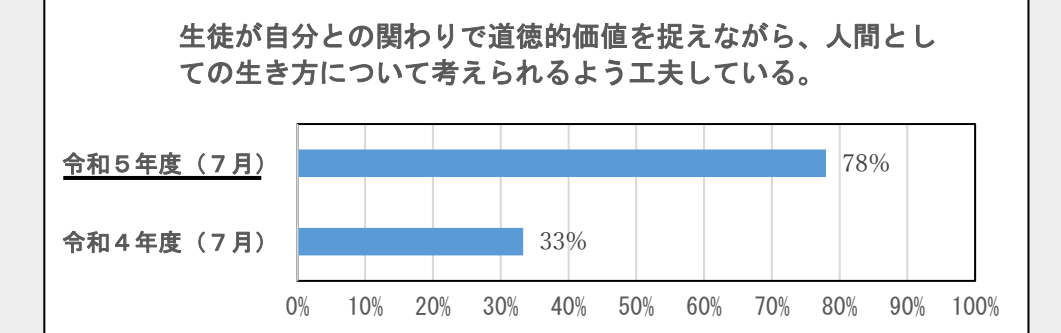


【資料統計部の取組】

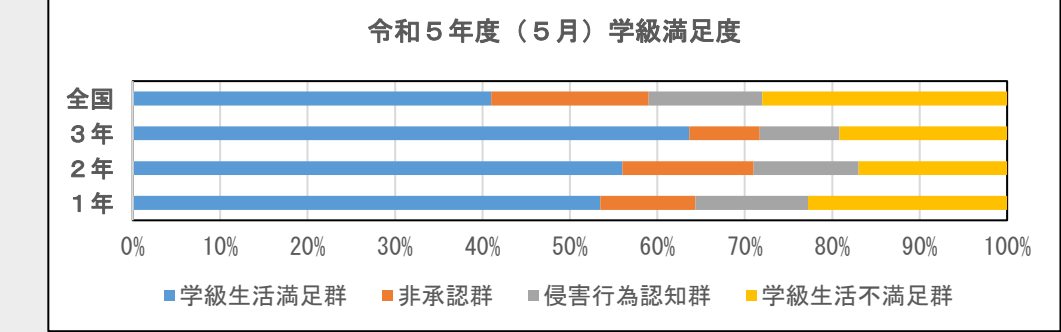
- 生徒アンケートの実施
 - ・道徳科の授業についてのアンケート 質問11項目



- 教員アンケートの実施
 - ・道徳科の授業についてのアンケート 質問16項目



- 保護者アンケートの実施
 - ・道徳科の内容項目についてのアンケート
- 心理テスト「hyper-QU」の実施
 - ・学級生活満足度
 - ・ソーシャルスキル
 - ・学校生活意欲プロフィール



- 埼玉県「規律ある態度」達成目標の調査結果
 - ・「先生の話や友達の発表をしっかりと聞き、自分の考えを伝えることができる」の「よくできる」「だいたいできる」の割合
 令和4年度（5月）→79.1% 令和5年度（5月）→83.7%

【成果と課題】

- 成果（アンケート結果より）
 - ・教員アンケート結果から、教員の道徳科の授業に対する意識が向上した。
 - ・生徒アンケート結果から、生徒が道徳科の授業に真剣に取り組み、好きな生徒の割合が増え、自分の考えや思いを表すことなどができるようになった。
 - ・保護者アンケート結果から、中学入学当初と比べ、道徳科の内容項目が身に付いてきたと感じる保護者が多かった。
- 課題
 - ・学校が核となり、保護者や地域と協力して道徳教育を推進できるようなくみをつくる必要がある。